

# 四年制大学設置に向けて

——四年制大学設置委員会——

## ■ 背景

1989年に西原キャンパスへ移転して以来、短大の教育プログラムの一層の拡充を図りながら、本学院はもう一つの大きな目標「四年制大学設置」に向かって努力してきた。1991年に教授会に設けられた四年制大学設置検討委員会は、翌年7月には四年制大学を設置すべきであるという趣旨の答申を出している。

最も大きな理由にあげられたのが、キリスト教主義高等教育機関としての使命の継承である。本短大は沖縄唯一のキリスト教主義高等教育機関であり、7千名を超える卒業生は各分野で目覚ましい活躍をしている。しかしながら、大学、特に四年制大学への進学者の数が飛躍的に増大するにつれて、高等教育における短大の比重が相対的に低くなってきたこともまた否めない。建学の精神を継承し、今後とも高等教育の場において重要な役割を果たし続けるためにも四年制大学を設置する必要がある。

社会の高度情報化・多様化・複雑化が急速に進展するにつれて、より高度な知識・技能を有し、種々の問題に総合的に対応できる人材が益々必要となってきた。氾濫する情報を的確に処理・評価し、価値ある情報を作り出す創造力豊かな人間の育成が高等教育に期待されている。国際化とともに異文化の人々との相互理解・共生に貢献できる人材の養成も急務となっている。

四年制大学志向の社会的趨勢はますます顕著となってきた。多くの短大が入学定員の一部を減らして四年制大学設置に踏み切っている。県内でも、流大に続いて沖国大が短大部を廃止して学部定員を増やしたが、県内大学の収容能力はまだ低い。四大を設置して収容能力を拡大して欲しいという社会的要請にも応えなければならない。

## ■ 学部・学科

検討委員会の答申に基づいて、理事会・教授会・事務局の代表より成る四年制大学設置準備委員会が組織され、本格的な作業に入ったのは1992年7月である。短大の入学定員350人の中から100人を四年制へまわすという改組転換方式をとることになった。福祉関係の学科なる定員増も可能という情報もあり、50人を追加した入学定員150人の学部を検討している。現在の英語科・保育科は短期大学部として四年制大学に組み込まれることになる。

四年制の学部としては、「人間文化学部」を

討している。人間の人間らしい在り方を追求する学部である。人間文化(human culture)に対して深い理解を有するとともに、より人間らしい文化(humane culture)の創造に積極的に参加し、地球社会の一員として有意義な貢献ができる人材の育成を目的としている。教育目標の第一は、聖なるものへの畏敬の念を養うことである。失われた人間性・全人格性の回復は、創造主との根源的な関りを通してのみ可能であると考えられる。多様性の中に調和を求め心を養うことが第二の目標である。多様な文化・価値観をもつ他者と共に生きることを学ばねばならない。第三の目標は、人類の福祉の向上のために奉仕する心を養うことである。恵みとして与えられた賜物を活かして隣人への奉仕に献身する人材の育成を目指す。

本学部に人間文化学科と人間福祉学科の2学科を置き、定員をそれぞれ100人、50人とする。英語・保育両科の教育目標や教育内容を包含する学科の設置という検討委員会の答申にも沿った案であると思う。

## ■ キャンパス候補地

キャンパス候補地の選定も四大設置準備委員会の大きな課題であった。本学院の財政状況から有償での取得は極めて困難である。現在の敷地は狭陰で運動場もなく、たとえ増築して校舎面積を増やしたにしても将来の大きな発展は望めない。当初、現キャンパス周辺に敷地を求めようと検討したが、それはほぼ不可能となった。四年制の学部は第二キャンパスに設置せざるを得ぬという状況下でいくつの市町村と接触してきた。教育環境が良いこと、本学院の教育方針が活かされること、喜んで迎え入れてくれる地域であること、その地域の活性化のために大学が貢献できること、等を念頭に話し合いを重ねてきた。最近になって、敷地の無償提供などを含めて大学誘致を考えたいという具志川市が最有力の候補地として浮上してきた。同市は、市も、議会も、市民も大学誘致に極めて積極的であり、市民劇場や市立図書館の建設にも見られるように文化行政に大変力を入れている。

本年5月、設置準備委員会が発展的に解消して四年制大学設置委員会が発足した。理事会、評議員会、教職員、司窓会、後援会、教団・キリスト教界、本学院を支援して下さる全ての人々の歡喜とエネルギーを集めて四年制大学設置の表裏に向けて邁進する時が到来した。



# 沖縄キリスト教短期大学報

1996年10月25日

第40号

沖縄キリスト教短期大学  
 沖縄県西原町字翁長777  
 電話 (098) 946-1240  
 FAX (098) 946-1241  
 発行 学長 原 喜美  
 編集 事務局企画課



## 主な内容

- ★苦難の時こそ神の深い愛………学長 原 喜美
- ★1997年度入試日程表
- ★宗教部NEWS
  - ・第1回ボランティアリーダー養成研修会
  - ・阪神大震災被災地から小・中学生を迎え「ジュニアキャンプ in 沖縄」
  - ・フィリピン・フレンドシップ・キャンプ
  - ・パンダラディッシュ・スタディーツアー
  - ・講演会
- ★キャンパスライフ
  - ・海外研修
  - ・外国人留学生に聞きました
  - ・再入学について聞きました

- ★第31回キリ短祭・第5回七夕祭り
- ★第7回高校生英語弁論大会開催される
- ★元記っています我ら卒業生！
  - ・前田アカバナーアメリカ公演
  - ・シンガポールは中絶以上にチャンブルー文化！
- ★学内の動き
  - ・原喜美学長再選される
  - ・四一周年記念式典
- ★寄付感謝報告
- ★四年制大学設置に向けて

## 苦難の時こそ神の深い愛

陽春の佳き日、第40期生として沖縄キリスト教短期大学に入学された皆様、ご入学おめでとうございます。本日ご来場のご父母の皆様、ご関係の皆様には、永い間のご苦勞が実り、この喜びの日をお迎えになり、心からお祝い申し上げます。本日ご入学なされた411名の方々の中には、海外からこの短大を選んで来られた方7名、県外から来られた方8名、社会人として入学された方4名、障害にめげず立派に合格された方2名、そして男子の学生9名と、学生集団は非常に多様化しております。

さて、本短大は1957年4月、末だ沖縄がアメリカの占領下で荒廃していた中から誕生しました。20数名の学生と共に、イエス・キリストにある平和教育、人格教育の場として沖縄における唯一の



キリスト教主義高等教育機関として創設されました。この創立は、仲里朝章先生の遠大なビジョンと、若い人々への熱い想いがインスピレーションとなり、志を同じくする協働者の祈りにより建てられ導かれて来ました。詩篇139篇14節。

「わたしは、あなたに感謝をささげる。  
わたしは恐ろしい力によって、  
驚くべきものに造り上げられている。  
御業がどんなに驚くべきものか  
わたしの魂はよく知っている。」

この御言により明らかであるように、この短大は特別に神の恵みによって導かれて来ました。創立者の御意志は、本学の建学の精神、すなわち「神と人とに仕える」という愛の精神として継承されています。建学の精神は、この短大の隅々にまで浸透しています。日々の教室等における学びの場において、教授と学生の人間関係、学習の姿勢において、私達の想いにも、言葉にも行ないにもあらわれています。

今回ご入学になった皆さんが、どのような理由で本学を志望されたかを詳しく調べてみました。すると、驚くことに受験生は本学の国際性、ボランティア活動、キリスト教精神などに注目して、

世界に通用する信頼される人間になりたい。また、本学を理想の大学と評価しておられます。一人の方は最近母上をガンでなくされ、女手一つで二人の子供を育てて下さった母上からヒントを得て、悲しみの中から立ち上がって本学を受験されました。苦難の時こそ神の深い愛とご計画が分かる最高の時であると私自身深く感動いたしました。英語科の学生のみならず保育科の学生さんも、外国語習得の必要を痛感して、異文化経験にチャレンジして居られます。本学を卒業後は、四年制大学に編入希望者も相当多く、心強い限りです。

ご承知のように、戦後51年目、日本は社会、政治、経済、教育など大転換期に遭遇しています。特に沖縄では、力の論理と平和の論理の相剋により世界の注目を集めています。このキーストーン・アイランドを平和の島、平和の発信地とする為には、特に若い世代のエンパワーメント（学生時代

という勉学に集中できる時に実力を充分養うこと)が重要です。たった2年間の短い期間ですが、四年制大学に較べて勝るとも劣らぬ意気込みで、主体的に勉学に取り組んでほしいと願います。教育は、スプーン・フィーディングでは達成できません。皆さんの中に潜在する無限の能力を創意工夫により、自由に引き出して、額に汗して目標に向かって、自分の手で専門の知識、広い教養を獲得することが大切です。きびしい試練の中にも、真理の深求は大きな喜びと楽しさが伴います。刻々進展する技術社会・情報社会に耐え得るスキルと知識をも十分に身に付け、二度と繰り返すことの出来ない一人ひとりの人生をどのように生きるかを、建学の理念を基調として、深く学んでいき度いと思います。平和・正義・愛・人権・共生をキーワードとして21世紀への希望を本日入学された、皆さんの主体的な取り組みに期待いたします。

これをもちまして、皆様のご入学を心から御祝し、式辞といたします。にふぁーでーびる

1996年4月1日 入学式式辞

学長 原 喜 美

# 1997年度入試日程表

### 【推薦入学試験】

	特 奨 生 推 薦 入 学 試 験	高 校 長 推 薦 入 学 試 験 特 別 推 薦 入 学 試 験 外 国 人 留 学 生 等 推 薦 入 学 試 験
入 学 試 験	1996年12月2日(月)	12月3日(火)
願 書 受 付	1996年11月1日(金)～8日(金) (郵送受付のみ・8日消印有効)	11月5日(火)～15日(金) (郵送受付のみ・15日消印有効)
合 格 発 表	12月11日(水) 13:00 (学内掲示・郵送)	
学 費 納 入	12月12日(木)～20日(金)	
入 学 手 続 書 類 提 出	12月20日(金)・24日(火)	9:00～16:30
再 受 験 願 書 受 付	1997年1月10日(金)～20日(月) 9:00～16:30	

### 【一般入学試験】

願 書 受 付	1997年1月10日(金)～20日(月)
入 学 試 験	2月10日(月) 9:00
合 格 発 表	2月19日(水) 14:00
学 費 納 入	2月20日(木)～28日(金)
入 学 手 続 書 類 提 出	3月5日(水)～7日(金)



### 【1997年10月入学者 推薦入学試験】

願 書 受 付	1997年7月14日(月)～18日(金)
入 学 試 験	8月1日(金)
合 格 発 表	8月8日(金)
学 費 納 入	8月11日(月)～15日(金)
入 学 手 続 書 類 提 出	8月14日(木)～15日(金)



## 第1回 ボランティア・リーダー養成(宿泊)研修会

1996年2月23日～24日の2日間に亘り、佐敷町の沖縄厚生年金センターにおいて教職員8名と学生19名が参加して実施された。

学生達は、建学の精神である「神と人とに仕える」ということばを具現化するボランティア活動と、ボランティア・リーダーに求められる資質・精神とは何であるかということ、討論・パフォーマンスを通し深く考え、体験的福祉活動・レクリエーション指導・介護法等の実践も行った。

### 阪神大震災被災地から小・中学生を迎え“ジュニアキャンプ in 沖縄”

多くの方々の協力のもと、小中学生を兵庫県から5名、本県から3名、学生ボランティア11名を加えて8月20日～24日にキャンプを実施した。



### フィリピン・フレンドシップ・キャンプ

フィリピン ピナツポ火山で被災した子供達の支援のため、ボランティア学生を派遣した。受入先はフィリピンガールスカウト連盟本部。

今回のキャンプには在學生11名、卒業生2名、そして引率教職員2名が参加し、8月26日から9月3日の8日間フィリピンの大学を訪問して、社会・文化・宗教を学びつつ、ストリート・チルドレン、

ピナツポ火山の大噴火により被災した子供との交わりを深めた。



「地球化時代は愛の時」と題して、一色義子先生(恵泉女学園理事・大学助教授)の講演会が1996年6月6日日本学チャペルにて行われた。



講

演

会

1995年12月14日、沖縄県会議員糸数慶子氏を招いて「平和について—今を生きるものとして」をテーマに講演して頂いた。



## バングラデッシュ・スタディーツアーに参加して



英語科 砂 辺 かおる

バングラデッシュで初めて目にする貧富の差や宗教などによる文化の違い、又、洪水による被害など数えきれないほどの経験をし、整理のつかないまま帰国して、もうすぐ1年が過ぎようとしています。帰国当初は、生きるために必死になって働いている子供達や、明日への恐怖と不安を抱いて物乞いをする人々の事を考えると、言葉にならない涙が溢れてきました。心の整理はまだついていませんが、1年過つ今、バングラデッシュの、のどかな生活や大自然を思うと、花や夕日にほとんど心を休めることなく、近代化された毎日の生活に埋もれている自分自身を、いつも反省させられます。バングラデッシュでも、日本でも、きっと人には誰でも試練があると思いますが、一人ではない事を知って歩いて行ける事を心から願います。キリ短からバングラデッシュに、寺子屋を寄贈することができました。皆様のご協力に感謝致します。

※ バングラデッシュ・スタディーツアーが1996年8月16日～30日に実施された。今回は、英語科1年砂辺かおる、高嶋奈々さん、そして保育科1年の中原木綿子さんが参加した。



### 1996年度—— 公 開 講 座 ——

1. 前期定例(4月～7月)		2. 夏期集中(8～9月)		3. 後期定例(10月～2月)	
講座名	受講生	講座名	受講生	講座名	受講生
カウンセリング上級	36	English Conversation	33	カウンセリング上級	55
カウンセリング中級	41	ワードプロセッサ入門	26	聖書ギリシャ語初級(2)	7
青少年カウンセリングと家族問題	28	保育者のための腹話術入門	25	保育者のための腹話術入門(2)	15
現代に生きる旧約聖書の世界	16	計	84	English Conversation	26
聖書ギリシャ語初級	8			Intermediate English Conversation	23
カルヴァンの教理と敬虔(6)	13			Issues in Asian American Studies	11
水墨画と造形	29			計	137
English Conversation	28				
Issues in Asian American Studies	8				
計	207				



■ 社会人学生

生涯学習促進の一環として推薦入試で社会人学生を受入れています。現在、英語科に26名、保育科に8名が在学中です。



■ 障害をもつ学生

教育の機会均等を目標とし、学習意欲のある障害をもつ学生を推薦入試で受入れています。

学内では、スロープ・点字ブロック・エレベーター・点訳機器の設置、及び学生によるボランティア活動などを行い環境のノーマライゼーションに努めています。

現在、視覚障害者4名、四肢障害者4名、(内、車椅子使用者2名)が在学中です。



**1993年に始まった海外研修**は正規の科目として位置づけられ単位が授与されています。今回は次の通りです。

Michigan State University: 1995年8月27日～9月25日(英語科28名、保育科13名)  
Hawaii Community Colleges: 1996年2月11日～3月10日(英語科11名、保育科9名)

MSU海外幼児研修に参加して



保育科 新垣優子

私は、去る8月27日～9月25日にかけて約4週間ミシガン州の海外幼児研修に参加して来ました。以前から、私は日本のことはもちろん、その他諸外国の保育(方針や問題)について、また、日本の保育との違いについて、とても興味を持っていました。このような素晴らしい機会に巡り合えて本当に嬉しく思っています。そこでは、実際に保育園で実習し、現場での子供達の様子を直に見学することができ、日本の保育との違いにただ驚かされるばかりでした。また、異文化での生活リズムの違いにおいて、日本では未だわうことのできない体験もできました。

このような保育に関する幼児研修が実際に行われているのは、沖縄キリスト教短期大学の特徴ではないでしょうか。これは、素晴らしい機会であり、みなさんぜひ参加して欲しいです。私は入学して、このような研修に参加ができ、嬉しく思っています。

ハワイ研修を振り返って!



英語科 仲里三奈子

私達は、カウアイ島とオアフ島の2つの島へ行き、そのコミュニティカレッジへ通いました。授業では、ハワイの文化・歴史について学んだり、あちらの生徒達と交流したり、週末にはホームステイを行ったり、観光したりと様々なプログラムが用意されていました。

この1ヶ月間で色々な事を体験し、多くの事を学びました。特に私が感じたことは、あちらの学生はみんな熱心に勉強してとても努力家で、授業に対して積極的であること。そして、園児者に対して設備が整っていること。最後に、年齢の差を感じさせないほどお洒落も若さがあることです。

このように実際に自分の目で見て、感じる事ができました。私にとってこの研修は初めての外国へ行く機会でした。2年間という短い学生生活の中で約1ヶ月間を外国で勉強することができたことは私にとって貴重な経験であり、素直に思い出です。

外国人留学生に聞きました!



- Q1 どうしてキリ短を選んだのですか。  
Q2 在学中、特に印象に残ったことは  
Q3 最後に、留学生の後輩達にアドバイスをお願いします。

英語科  
藩 偉 華

- Q1 最初には、キリ短の英語教育が凄くいいという噂を聞いて、是非行ってみたいと思った。それから、キャンパスにいてその建物の美しい雰囲気にひきつけられたのもあった。  
Q2 そうですね、学校の暖かさは一番印象に残っている。キャンパスはそんなに大きくないので、ほとんどの学生と毎日会うことが出来る。私が勉強している英語科の学生だけでなく、保育科の学生、学校の職員、先生まで沢山の友達が出来た。学校でのいろいろなイベントとサークル活動があるので、勉強しながら遊べるのがいいね。

- Q3 学校の職員と先生たちみんな優しいから何かあったら相談してもらった方がいいと思う。そして、いっぱい友達ができる学校での勉強を楽しみにしてください。

外国人留学生と帰国生在籍数

1996年5月1日現在

入学年度	国名	中国	台湾	アフリカ	ペルー	アルゼンチン	ブラジル	計
1994年10月			4	2	1			7
1995年4月	1	1			3	1	1	7
1995年10月	2			3	1			6
1996年4月	3	3			1	1		8
計		3	8	5	6	2	1	28

再入学について聞きました!

- Q1 卒業後、どういうお仕事をなさっていましたか。  
Q2 何故、四年制大学ではなく、キリ短へ再入学を決意したのですか。  
Q3 以前のキリ短と比べて現在はどうか。  
Q4 スバリ!あなたの夢は...

保育科

新崎美奈子



- Q1 東京にある富士通の関連会社に入社し約3年間ソフト部門にて役員秘書、外国人研

- 修生のお世話をしていました。  
Q2 定期的に幼稚園などで、新体操を教える機会があり、技術だけでなく、保育者として深く子供と関わっていきたく思ったから。  
Q3 学生と車の教にビックリした。全体的におしゃれで、かわいい学生が増えたと思います。  
Q4 私流の保育を研究し、世界の様々な国の子供たちと共に生きていきたいです。

保育科

澤地美佐江



- Q1 1993年、(株)サービスクリエーションに入社し、関連会社の日本トランスオーシャン

- 航空那覇支店のカウンターに勤務していました。  
Q2 キリ短と別の大学のどちらかに行こうかと迷っていましたが、「保育を学ぶのならキリ短」というアドバイスに決意しました。  
Q3 学生の数の多さに驚きました。あと、やっぱりキリ短はかわいい子が多いですね。  
Q4 現役保育の友人がいて、その子達と保育園が一緒だったらね...なんて話を時々しています。

## 第31回キリ短祭

1995年11月25日と26日の2日間に互り「seize the day- 自分の中にある力を信じて」をテーマに今年も又、花のキリ短祭が実施された。



## チャリティーコンサート開催

(主催：沖縄キリスト教短期大学のチャペルにパイプオルガンを贈る実行委員会)

1995年11月11日の午後7時、本学チャペルにて同コンサートが催された。

今回の出し物は次の通りです。

- ☆金武バプテスト教会・横田盛永氏のサンシン演奏
  - ☆天久神の教会・ゴスペルフォークチームによるホザンナ
  - ☆沖縄バプテスト連盟・婦人会南部地区賛美チームのグロリア
- 厳かな中にも笑いとユーモアに満ちた出演者、観客が一体となった1時間半でした。

## 第5回七夕祭り



1996年7月6日(土)

18:00~21:00

今年も又、恒例の“ミスキリ短”選出をはじめ、カラオケ大会他各種催しもので大いに盛り上がった。



なお、実行委員会では、今後ともコンサートやバザー等を通して皆様へのご協力を呼びかけていきます。

連絡先：那覇天久神の教会

牧師 折田政博

(電) 098-868-7852

## 第7回高校生英語弁論大会開催される

1995年12月16日 本学チャペル

県内の高校生の英語コミュニケーション能力を高めることを目的として始まったこの大会も今や7回を数える。今回は23校が応募した。結果は次の通り。

- 1位 島袋 リセッテ (浦添商業高校2年)
- 2位 金城 紅美子 (糸満高校3年)
- 3位 具志堅 歩 (名護高校3年)

なお、入賞者にはそれぞれ賞金と賞状が授与された。



# 頑張っています我ら卒業生!

## 劇団アカバナ

英語劇団アカバナのハワイ・北米公演にご協力を。在学中、英語劇倶楽部「メルローズ」として郷土沖縄を題材とした英語劇を上演した。

メンバー卒業後、沖縄在住者は勿論、より多くの外国人に紹介したいという熱い思いのもと[劇団アカバナ]を結成(団長：森山涼子、28期英語科 浦添市立仲西中学校教諭)

1995年「AKABANA」の県内公演を縁としてアメリカ在住沖縄県人会から依頼を受けた。団員一総勢17名、公演日程 ハワイ9月18日 ロサンジェルス9月21日。



問合せ：山入端明子(携帯080-290-9147)

## 新聞記事から

北中城村・夢海渡太鼓代表

佐久本盛明さん(23期保育科)

「沖縄タイムス 1996年2月21日朝刊」より

昨年三月末で十一年間勤めた村立保育所の係を辞めた。奥さん以外には知らせてなかった。反響が大きかった。二太鼓を食って行くのか、「イベントをやるのか」と聞く人が多かったが、真意は違った。「文化や創造活動に情熱が移ってしまっただけ。不器用なのが、二つをやっていくのは自分から許さなかった。先のこと、考えなかったなあ。進学も保父になったのも一人で決め、周りを驚かせた。長い時間かけて築いてきた居心地のよい職場を去るのに迷いはなかった。夢海渡太鼓の公演を見て感動。保父仲間と子供向けの太鼓をたたいてたのを、「村の太鼓」を結成しないと教職員員会から苛めかけられた。村に多い「出稼屋」をテーマに映画

## 古里を思い起こさせる太鼓に

「無難」になったこの一年の目標は「いい舞を舞ってメンバに力をこめて」「イベントで村を騒がす」。満足いく二太鼓は「青年が太鼓を通して人を知り、帰郷を促す。それが地城リターナーになる。自分の子供が育つ村だから、古里を思い起こさせる太鼓にしたい。村が小さいか否か関係ない。若い世代は、基本スウェーデンの太鼓だ。」(北中城)

夢海渡太鼓代表 佐久本盛明さん(36)



クラシックの浸透を文化庁芸術インターンシップ制度のバレエ研修員として、東京に十カ月間派遣されていた島袋雅子さん(二六)が、真が二十四日、沖縄タイムス社で帰郷報告をした。同制度は有能な芸術家を育てようとして、各分野の若手を対象に研修の機会を与えるもの。島袋さんはバレエ歴二十年。日本バレエ協会コンクールで、沖縄支部予選で六年連続一位の実績を持つ。昨年六月から三月まで笹本バレエ学園でレッスンに励んだ。「沖縄では得られない経験が数多く、クラシックバレエの深さを学んだ」と話し、「クラシックをもっと沖縄に浸透させていきたい」と抱負を述べた。



文化庁芸術インターンシップ バレエ研修員 島袋雅子さん(32期保育科)

「沖縄タイムス 1996年4月26日朝刊」より

インタビュー

シンガポールは沖縄以上にチャンプルー文化!

山田 真紀子

(那覇高等学校卒業、1993年本学保育科卒業) 理事長室 6月19日

Q. どんなお仕事をなさっていますか。

日本人の1才半から3才児までのジャパニーズ・イングリッシュ・クラスの子供達15名の日本語教師です。パートナーはシンガポール人ですが、彼女は英語担当です。子供達には日本語、英語はもちろんですが、遊びの中から生活のリズムといますか、生活習慣を養うよう指導しています。

また、保育以外にもカルチャーセンター的な事とか、一時預かりもやっています。限られたスタッフでするので結構大変ですよ。



Q. お仕事はいつまでの予定ですか。

昨年(1995年)の11月からですから、来年(1997年)の11月までの2か年です。

Q. 専攻は保育科ですが、在学中から外国で仕事をしたいと考えていましたか。

入学前に、キリ短の卒業生が香港の日本人幼稚園に就職しているのを知り、国際的感覚を身につけながら、専門の職業につければいいなと漠然ではありましたが思っていました。それで自分もキリ短を卒業する時はもしかしたら、可能性があるんじゃないかと期待感を持ち入学しました。卒業後は座間味村立の幼稚園に勤めていたのですが、ある先生から紹介を頂きましてそれで応募しました。おかげさまで、本当に自分にもチャンスがめぐってきました。

Q. シンガポールでの生活で困ったことはないですか。

私が勤めているのは地元企業なんですけど、父母の方は日本人ですので、中には、日本的なサービスを要求してくる人もいます。園の方針や現地の人達の考え・気質とは若干違うところがあるもの

ですから、接点というか仲介にたっている私が困る時が大分あります。

Q. 楽しいことは?

沖縄もチャンプルー文化ですが、向こうは更にそれが凝縮されてチャンプルーなんです。少なくとも4民族と一緒に自然に生活しています。アメリカも多民族が同居していますが、いろんな問題が起っていますよね。

Q. 後輩にメッセージをお願いします。

以前は、受け身的で依頼心が強かったんです。しかし、外国では自分から動かないと何事も変わらないし、解決できない。また、人から聞いたことでも、必ず自分の目で耳で確かめるようダブルチェックしています。

そういえば、在学中に知り合った増沢みぎわさん(注)から手紙がきていたんですが、なかなか返事が書けなくて、そうこうしている間に、彼女が香港で就職したことを、母からの沖縄の新聞記事で知りビックリしました。

[注]1996年3月保育科卒業生 増沢みぎわ、喜友名さおり、兼島綾子の3名が香港の日本人子女向けの幼稚園に就職した。全国から応募があったが、本学の3名が採用された。



※山田さんは6月19日から22日まで休暇のため帰沖。インタビューは那覇空港からそのまま本学にかけつけていただいた。ありがとうございました。

なお、彼女より半年程前に、本学保育科卒業の比嘉里美さんも系列の保育園に就職し頑張っている。



1996年3月卒業生就職状況

英語科		保育科	
産業別	企業名	産業別	企業名
サービス業	ア ク ア ポ リ ス (株) 山 城 消 化 器 科 内 科 医 院 (株) ベ ル ソ ビ ア ・ オ ー シ ー シ (株) ラ シ ー マ ト (株) 宮 古 島 東 急 リ ゾ ー ト (株) 平 盛 リ ゾ ー ト エ ン タ ー プ ラ イ 育 成 保 育 カ レ ッ ジ 学 院	サ	あ い う お さ し し す た チ ト ナ か し な お さ し し す た チ ト ナ だ ば ぞ き の の み ろ れ 丘 ら ら 幼 実 め の よ り ミ 保 保 保 保 保 保 保 保 保 保 育 育 育 育 育 育 育 育 育 育 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園
運輸業	沖 縄 ツ ー リ ス ト 株 式 会 社 全 日 空 商 事 株 式 会 社 全 日 空 輸 送 株 式 会 社 (株) エ ー ア ー 沖 縄 (株) エ ー エ ス エ ー ト ラ ベ ル ・ 沖 縄 (株) サ ー ビ ス ク リ エ イ シ ョ ン (株) 近 畿 日 本 ツ ー リ ス ト オ キ ナ (株) 日 本 エ ア シ ス テ ム 沖 縄 支 店	イ	あ い う お さ し し す た チ ト ナ か し な お さ し し す た チ ト ナ だ ば ぞ き の の み ろ れ 丘 ら ら 幼 実 め の よ り ミ 保 保 保 保 保 保 保 保 保 保 育 育 育 育 育 育 育 育 育 育 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園
金融保険業	ア コ ム 株 式 会 社 プ ロ ミ ス 株 式 会 社 国 際 証 券 株 式 会 社 商 工 組 合 中 央 金 庫 西 日 本 建 設 保 証 株 式 会 社 (株) オ ー ク (株) 沖 縄 海 邦 銀 行 (株) 沖 縄 銀 行 (株) 武 富	ス	あ い う お さ し し す た チ ト ナ か し な お さ し し す た チ ト ナ だ ば ぞ き の の み ろ れ 丘 ら ら 幼 実 め の よ り ミ 保 保 保 保 保 保 保 保 保 保 育 育 育 育 育 育 育 育 育 育 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園
建設業	大 米 建 設	業	あ い う お さ し し す た チ ト ナ か し な お さ し し す た チ ト ナ だ ば ぞ き の の み ろ れ 丘 ら ら 幼 実 め の よ り ミ 保 保 保 保 保 保 保 保 保 保 育 育 育 育 育 育 育 育 育 育 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園
卸売小売業	T O A 株 式 会 社 ア ニ エ ス ベ ー サ ン ラ イ エ ー ザ イ (株) 福 岡 支 店 沖 縄 出 張 所 沖 縄 リ コ ー 株 式 会 社 松 下 電 工 (株) 沖 縄 営 業 所 東 江 メ ガ 日 産 サ ニ ー 沖 縄 販 売 株 式 会 社 琉 球 日 産 自 動 車 株 式 会 社 (株) ア イ エ ス シ ー 沖 縄	業	あ い う お さ し し す た チ ト ナ か し な お さ し し す た チ ト ナ だ ば ぞ き の の み ろ れ 丘 ら ら 幼 実 め の よ り ミ 保 保 保 保 保 保 保 保 保 保 育 育 育 育 育 育 育 育 育 育 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園 園
公務員	沖 縄 学 校 英 語 教 員		
製造業	ぐ し け ん (株) 中 央 出 版 株 式 会 社 人 事 本 部 マ ス プ ロ 電 工 (株)		
不動産業	沖 縄 建 住 宅 大 京		
	合 計		

進学	科別	
	英語科	保育科
琉球国際大学	2	
沖縄桜大	5	
桜美林大	3	1
活水女子大	1	
鹿兒島女子大	1	
ATENEO DE MANILA UNIVERSITY (フィリピン)	1	

■ 学長再選される。

1995年7月14日、任期満了に伴う学長選挙で、現学長の原喜美先生が再選された。2期目。任期は10月1日から4年。

【略歴】

1937年 津田塾専門学校(現津田塾大)卒  
 1951年 シカゴ大大学院 修士課程修了(M.A.)  
 1972年 ミシガン州立大大学院 博士課程修了(Ph.D.)  
 津田塾大学、国際基督教大学、四国学院大学、香川短期大学、東京神学大学にて教鞭をとり、  
 1991年10月1日、本短大学長に就任。専門は教育社会学。  
 フィリピン アテネオ・デ・マニラ大学、フィリピン女子大学、インドネシア パジャジャラン大学にて客員教授を務める。フィリピン女子大学より名誉博士号を受ける。

十字架のイエス・キリストの御苦しみ  
 を共有させていただく喜びをかみしめて  
 感謝のみにつぎます。沖縄キリスト教短期  
 大学が、真に優れた卒業生を世に送り出  
 すことに集中したい。

再選の抱負



学院創設 四十周年記念 式典 式典・特別講演会 午後3時～5時  
 1997年4月6日(日) 祝賀会 午後5時～6時30分  
 場所 本学 チャペル・体育館

1957年4月9日、首里教会の一角に学院が創設されて、本年で早や40年を迎えました。その後、1962年に首里城後背地の丘陵に校舎建築をし移転、そして1989年、西原町翁長にキャンパス移転し現在に至っております。

当初、14名の入学生からスタートした学院も、現在、卒業生7,500名余を社会に送り出し、在学生900名余の大学に発展しました。

今後、四年制大学設置をバネとし、21世紀を視野にいれ、更なる飛躍を目指します。  
 これまで、本学院を支えて頂きました皆様をお迎えし、ささやかな式典、祝賀会、特別講演を催します。  
 四十周年記念事業実行委員会

——創立にあたっての先生たち——



前田伊都子先生



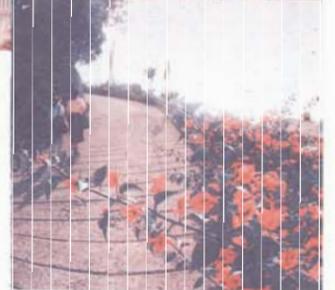
仲里朝章先生



ウォルター・W  
 クライダー 宣教師



旧キャンパス  
 2・3号棟



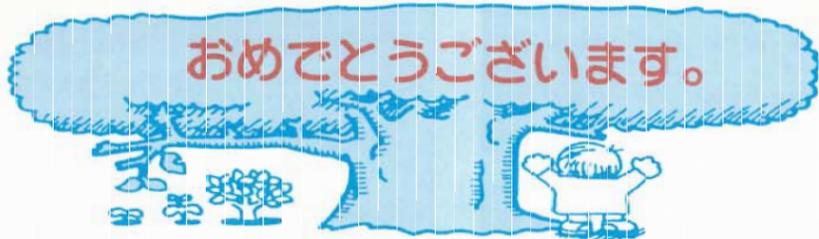
正門坂道



大城宜武教授が1995年10月27日  
 東邦大学医学部より医学博士の  
 学位を授与された。  
 学位論文 「老いの始まりの兆  
 候の認知の性差・年齢差」



金城重明名誉教授が1995年12月16日  
 「第16回沖縄タイムス出版文化賞」  
 を受賞した。  
 著書：「集団自決」を心に刻んで



■ 結 婚  
 事務局総務課  
 伊波智子  
 (旧姓渡慶次)  
 ※電撃結婚で  
 した!



和子我謝MATTHEWS  
 教務課主任(結婚退職)  
 ※第2の人生を  
 アメリカで!



学生課  
 平良みどり  
 (旧姓 謝花)  
 ※ダンナさんは  
 超やさしい高  
 校の先生!

出版情報

「沖縄の疾病史」  
 保育科教授 稲福盛輝(著)第一書房 1995年10月 発行  
 「紀要 第24号」  
 編集：紀要編集委員会 1995年12月 発行  
 「自己点検・評価報告書(1) 1994年度～1995年度」  
 編集：自己点検・評価運営委員会  
 1995年3月 発行

計報

與儀圭子さん 36期 1994年英語科卒業  
 アメリカ アイオワ州 Northwestern College 留学  
 中、1996年1月6日、不慮の事故にて亡くなりました。  
 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

人 事

区 分	発令年月日	氏 名	異動内容
昇格	1996年4月1日	神里博武	保育科教授 授任
退職	6月30日	我謝和子	教科書部 主 任
復職	4月1日	松田道勝	図書課 教 務
採用	6月1日	玉寄勝也	教科書課 書記

事務職員人事異動

発令年月日	氏名	新任	前任
1995年9月1日	金城直秀	学生課 課 長	図学課 課 長
"	西儀勝純	学生課 課 長	図学課 課 長
"	我宮謙和	教務課 主 任	学生課 主 任
"	出元盛多	教務課 主 任	学生課 主 任
"	外間幸子	図学課 書記	企管課 書記
"	濱川幸子	図学課 書記	企管課 書記
"	城間勉美	図学課 書記	企管課 書記
"	仲宗根末	図学課 書記	企管課 書記

